46・9件）でした。

そのうち初めて受診した方（新規外来）は128人（月平均：10・6人）。新規外来の内訳は、表4（年齢）、表5（住所地）、表6（診断名）、表7（認知症重症度）のとおりです。

認知症重症度（Clinical Dementia Rating：CDR）では、「重度（CDR3）」と「中等度（CDR2）」を合わせると69％を占めています。年齢層では後期高齢者（75歳以上）が87％となっており、認知症に関しても早期発見・早期治療が必要といわれながら、実際には重度化・高齢化してからでないと受診に繋がっていない実態が見えてきました。軽度の認知症または若年性認知症の人への支援も認知症疾患医療センターにとっては重要な役割であるため、今後の課題であると感じています。

図書コーナー　市民公開講座

認知症医療に関する情報発信・普及啓発活動

いずみ病棟1階のロビーでは、認知症関連資料を配架したパンフレットスタンドを設置するともに、認知症関連書籍が自由に閲覧できる図書コーナーを設けています。（写真1）

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむなく中止となりましたが、令和2年3月7日（土）には、第1回市民公開講座として「認知症の人と家族を支えるために～京都市における認知症支援の動き～」の開催を企画していました。当日は認知症サポート医である当院の澤田院長の講演のほか、多職種（認知症初期集中支援チーム、地域包括支援センター、京都市長寿すこやかセンター、認知症の人と家族の会など）によるリレートークが行われる予定でした。

3 京都市認知症疾患医療センター北山病院の今後について

令和元年6月、国（認知症施策推進関係閣僚会議）は「認知症施策推進大綱」を取りまとめました。「認知症は特別な病気ではなく、誰もがなりうる」との考え方のもと、認知症に関する問題は、医療・介護の分野だけに限定されるものではなく、社会のあらゆる分野が総力を挙げて対応していく必要があることが示されています。認知疾患医療センターについては、かかりつけ医、地域の相談拠点、専門医療機関の連携の中で司令塔としての機能が求められているため、果たすべき役割は、今後ますます大きく、そして多様化していくことが予想されます。北山病院として認知症医療・ケアの長い歴史の中で培ってきた経験を元に、これからも認知症疾患医療センターとしての役割をしっかりと果たしていきたいと思います。

表6　新規外来の診断名

6	正常または健常
5	軽度認知障害（MCI）
62	アルツハイマー型認知症
11	血管性認知症
8	レビー小体型認知症
2	前頭側頭型認知症
1	外傷性脳損傷による認知症
2	物質・医薬品誘発性による認知症
0	HIV感染による認知症
0	プリオン病による認知症
0	パーキンソン病による認知症
0	ハンチントン病による認知症
0	正常圧水頭症
4	他の医学的疾患による認知症
8	複数の病因による認知症
2	詳細不明の認知症
3	器質性精神障害
0	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
5	気分（感情）障害
1	てんかん
0	神経発達障害（知的発達障害を含む）
1	上記以外の精神疾患
0	上記以外の神経疾患
0	上記以外の疾患
7	診断保留

写真1

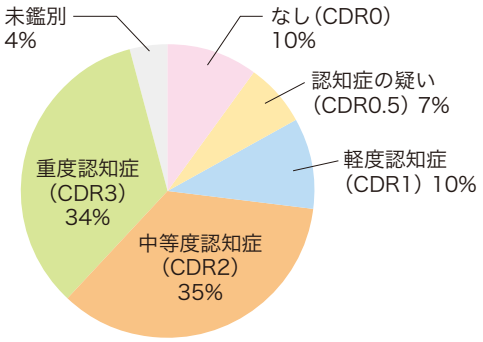

表7　新規外来の認知症重症度

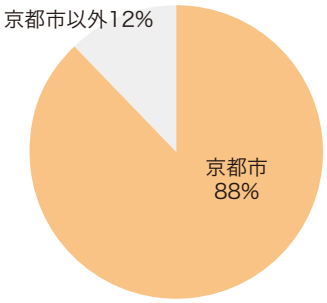

表5　新規外来の住所地

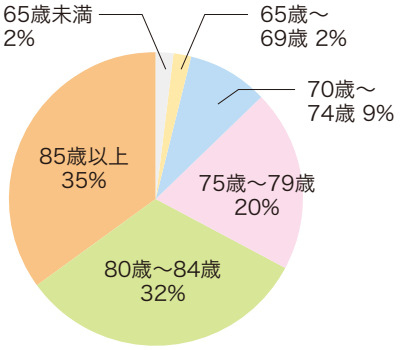

表4　新規外来の年齢